

## 「22年度の対面授業制限レベルは「レベル3」で開始します

まん延防止等重点措置が解除されて3週間が経過しましたが、すでにリバウンド兆候が見られるようになりまし。国立感染症研究所が3月30日付けで発表した「新型コロナウイルス感染症の直近の感染状況等」から要点をご紹介します。

■新規感染者における20代の割合の増加傾向が見られる。また、**感染場所として、20代では飲食店の割合が増加傾向にある。**

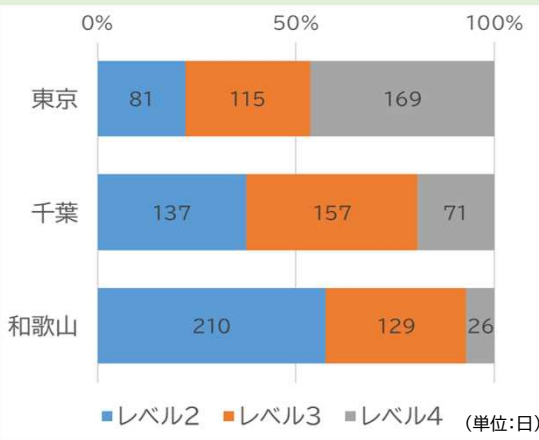
■東京の新規感染者数は**今週先週比が1.05と増加に転じ、直近一週間の感染者数は10万人あたり約358。**20代以下が中心。

■東京都における20代の新規感染者数は減少から下げ止まりで推移。また、発熱等相談件数や救急医療の東京ルールの適用件数は横ばいで、検査人数は減少傾向にあるが、**検査陽性率は増加傾向に転じている。**リバウンドの兆候の可能性もあり、注意が必要。

なお、現時点では東京都・千葉県・和歌山県のいずれの地域でも新規感染者数は増加に転じています。新学年を迎える4月という大事な時期ではあります、が、このような状況を踏まえて、大学では22年度の授業を、対面授業制限レベル「レベル3」を

継続して開始します。21年度を振り返ると、都内キャンパスでは「レベル4」の日数が最多となり学生の皆さんにはご不便をおかけしました(左図)。他方、校舎内での活動に起因する感染が発生しなかったの、**いわゆる「学級閉鎖」を行わずに対面授業を継続できました。**本学では教育におけるデジタルトランスフォーメーション(教育DX)を推進し、今後も対面と遠隔を併用するハイブリッド型授業を継続いたします。その中では、ワクチン接種やPCR検査の機会を増やすことで対面活動の機会を模索していくことも重要と考えています。学生の皆さんからの意見を提案も取り入れ、よい学び舎とともに創ってまいります。

2021年度の対面授業制限レベル別日数



## 文部科学省「医療DX」「産業DX」全学部・学科の取り組みが採択

本学では、感染拡大防止という喫緊の課題対応に加え、よりよい学びを支援する観点で教育DXを進めております。DXとは「データとデジタル技術を活用して、顧客や社会のニーズを基に、製品やサービス、ビジネスモデルを変革するとともに、業務そのものや、組織、プロセス、企業文化・風土を変革し、競争上の優位性を確立すること」と説明されています(経済産業省DX推進ガイドライン)。これを大

学教育に当てはめると、データとデジタル技術を活用して時代に合った学生本位の授業方法や学修環境に転換し、より学生の皆さんが満足できる大学づくりを進めることとなります。本学でも一昨年にDX計画を策定して積極的に取り組んでいます。

このほど本学では、全学部・学科の取り組みが文部科学省が行うDX補助事業に採択されました。各学部看護学科(五反田・東が丘・立川・千葉・和歌山)の取り組みは「ウイズコロナ時代の新たな医療に対応できる医療人材養成事業【医療DX】」に、医療保健学部医療栄養学科・医療情報学科(世田谷)の取り組みは、「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業DXをけん引する高度専門人材育成事業【産業DX】」にそれぞれ採択されています。医療と産業でいずれも採択された医療系

の大学は、全国でも本学のみです。この教育DX推進は、遠隔授業に偏らせるものではありません。例えば対面授業において、医療シミュレーターを用いた演習を充実させるとともに、その演習内容を自らのスマートフォンに保存し、自宅で振り返りできるなど**対面と遠隔を一体化させた学修形態**を目指していきます。本学では本補助事業を活用し、学生の皆さんから要望が強かった**個人所有スマートフォン**の無線LAN接続を、NTTドコモの協力を得て校舎の一部(右記の演習室周辺)で実現します。少しずつ皆さんが学びやすい場づくりを進めますので、建設的な意見・提案をお待ちしています。

